

(別紙4) 平成 23 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 3290700057 | | |
| 法人名 | 株式会社 ひょうま | | |
| 事業所名 | グループホーム ひなたぼっこ・相生① | | |
| 所在地 | 島根県浜田市相生町1445番地2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年10月25日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年1月10日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai-gokouinyou.jp/kai-gostip/information/public.do?GCU=3290700057&SCD=320&PCD=32 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------|
| 評価機関名 | NPOLしまね介護ネット |
| 所在地 | 島根県松江市白湯本町43番地 |
| 訪問調査日 | 平成23年11月16日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| 入居者ひとりひとりが笑顔で、その人らしくゆったりとした生活が送れる空間づくりに努めている |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| 職員は、利用者と信頼関係を築きながら今までの生活を大事にしゆったりと生活できるような支援に努めている。入居当初外出を好まなかった利用者が、本人の好みの食事を工夫することで食事が増え、体力がついたことで体調も良くなり外出を楽しむことができるようになった。馴染みの人との関係を大事にし、親しい人と外食に出かけるなど付き合いが継続できるように支援している。開設間もない事業所で、介護サービスの質の向上や地域の人の理解を得るため、管理者、職員が模索しながら利用者の安心できる生活の場作りに取り組んでいる。 |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|---|-----------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ケア会議や、また個別に理念を踏まえたサービスの提供ができるよう、話し合いをしている。管理者、職員ともに学習中。 | 管理者は会議などで理念の共有に努めている。利用者の生活を大事にして、理念に沿った支援ができるように話し合っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している | 近所を散歩したり・挨拶を交わしたりして交流が保てるように取り組んでいる。 | 散歩や外出時に挨拶を交わし利用者と一緒に回覧板を回している。地域の祭りに出かけたり、花をもらうこともある。開設間もなくこれからの課題となっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ヘルパー実習生を受け入れるなど、微力ながら介護人材育成への協力を行なっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催、現在のホームの様子を報告し、意見をいただきサービス向上に努めている。 | 事業所の状況を報告し意見交換をしている。委員の交代があり新たな委員を探している。 | 全家族に会議の報告をされることを望みたい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 認定更新時や運営推進会議には市職員の訪問があり、入居者の生活ぶりを見ていただき相談を行い連携を深めている。 | 市の地域密着型事業所の交流会に参加し情報交換をしている。地域包括支援センターに個別な事例の相談にのってもらった。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 月1回のケア会議等の中で職員全員が学習中である。現在入居されている方には該当者はいない。 | ケア会議で拘束をしない学習をしている。管理者は職員の言葉や行動が気になる場合は、職員が気づくよう話している。玄関は内側からセンサーで開けるようにしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | まだ外部研修の機会がないが、会議等では職員全員、学習中である。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、権利擁護についての学習の機会がないが、今後、学習する機会を持ちたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居契約時にホームの考え方や取り組み等について納得いただけるように努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 訪問時や運営推進会議に出席いただいた時など、意見や苦情を言いやすい雰囲気作りに配慮している。 | 便りや電話で利用者の状況を伝えている。面会時に話を聞く時、話しやすい雰囲気で見聞の引き出しに努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 提案・要望を聞くように心がけてはいるが、不満等は言い難い事もあり、十分には把握できていないと思われる。 | スタッフ会議の時や業務の中で意見を聞くようにしている。職員から研修の希望を聞き参加できるように支援している。 | 今後、より良い事業所にしていくために管理者、職員が活発に意見交換できるようなチーム作りを期待したい。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ヘルパーや介護福祉士の資格取得に向けて支援・取り組みを行っている。また個々の持ち場を離れる時や休憩時間の入り、退社時には声かけをし、職員間で連携をとるよう心がけている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 非常勤のスタッフも含めて会議を行い、外部研修への参加を勧め、研修後は、スタッフ会議の場で報告し共有している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着系部会が市内にあり、参加して情報交換等を行い、質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居の話があった時は、家族を踏まえて事前に面談を行い、生活状況や本人の要望を把握できるように取り組んでいる。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族が求めている事を把握し、ホームとしての対応ができる範疇を話し合っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人やご家族の思い・状況等を確認し、改善に向かう提案、相談を繰り返してサービスに繋がるようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者は人生の先輩である事を共通認識とし、お互いに和やかな生活が送れるように取り組んでいる。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 訪問時や電話等で近況をお知らせし、情報共有に努め、家族と共に支えられるように配慮している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの方や知人の方の訪問は歓迎し、帰られるときには、玄関まで本人と職員が出て見送り、再度来ていただけるよう言葉を掛けている。 | 自宅や近所にドライブに行き馴染みの関係が途切れないよう支援している。家族の協力で外泊し、楽しみにしている祭りに参加した人もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 申し送り等で情報交換をして、職員が調整役となり、入居者同士が話す時間を持ち、関係性が深まるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | まだ退居された方がおられないが、情報提供を行い、きめ細かい連携を心がけたい。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人に確認したり、言葉に表出できない部分は、日々の行動や表情等から推し量るよう努めている。 | 日頃の会話で何でも話せる関係作りに努め、意見を聞いている。利用者の不安な表情や仕草を見たり、家族から聞いて思いの把握に努め、職員間で共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人から聞いたり、家族の訪問時に情報をいただくなど、馴染みの生活状況の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | チームで情報共有ができるよう申し送り与生活記録等を活用して本人の全体像が掴めるようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員同士で意見交換・モニタリング・カンファレンスを行ない、家族の訪問時には意見を聞き、本人には日々の関わりの中で思いを引き出し、反映できるようにしている。 | 担当者が日頃から利用者や家族の意見を聞き、職員間で情報を集め計画に反映させている。状況の変化により内容の見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別に生活記録をとり、職員間の情報共有を図り、個々のケアに活かし介護計画に役立てている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人・家族の状態に合わせ、必要な支援に対応し、個々人の満足度を高めるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議に地域包括支援センターの職員の参加があり協力をいただいているが、地域資源を活用するには至っていない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所の協力医が月に1回訪問診察を行っている。 | 家族の希望で協力医の訪問診察を受けている。家族にはその都度報告をしている。夜間時は訪問看護で対応している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護ステーションとの契約をしており、日々の健康管理・医療面等において相談・助言・対応を行なっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 現在、入退院をされた方はおられない。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時にホームの「医療的な対応・看取り等に関する指針」を説明している。 | 重度化に対して対応できるよう職員と研修をしたり体制づくりに努めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 開所時に学習会を実施したが、今後も研修会を開き全職員が対応できるように図りたい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の協力を得て避難訓練と消火器の使い方等の訓練を行なった。今後も定期的に計画している。 | 開設時に消防署の協力のもと、消火器の使い方等の訓練を行った。今後も継続して訓練を行うことを考えている。 | 運営推進会議の中でも話し合いを重ね、地域との協力関係を築いていかれることを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | さりげないケアや自己決定しやすい声かけができるように互いに声を掛け合い、本人の気持ちを大切にす援助ができるように努めている。 | 利用者の気持ちに沿った支援を心がけ、優しく笑顔で話しかけている。居室に入る時のノックや気になる言葉遣いについてはその都度話し合っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 些細な事柄でも、本人の決定の場が増えるよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々人の体調や気持ちを大事にしながら支援が行えるよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その人らしい生活が保てるように、入居者の生活スタイルを把握して援助している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりができる事をお願いし、盛付け・配膳等を入居者と共に行い、職員も一緒に食事をとっている。 | 利用者の好物を献立に取り入れたり会話を楽しみながら食事をしている。魚をさばくのが得意な人に調理してもらい、片づけを手伝ってもらいなど利用者の力が活かされるよう支援している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分量は1日1000ml程度は摂取するよう取り組み、食事は個々人に合わせて盛付けや調理の仕方を工夫するなどしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、義歯の洗浄とうがい、夕食後は洗浄液に入れておくことを声かけ・援助し、本人でできる方は、さりげなく様子観察を行うようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 入居者の行動・表情等に注目して、自尊心に配慮した援助をし、トイレでの排泄を心がけて紙パンツやパット類も本人と相談しながら使用している。 | 排泄パターンの把握に努め、利用者と紙パンツやパット等の使用について相談しながら支援している。夜間はドアの音やトイレ時間の長さに気を配り支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表を利用し、排便の有無を確認し、水分補給と繊維質の食材を食事に取り入れるなどしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 本人に確認を取りながら、入浴を勧めている。週2回は入っていただけるようにしている。 | 生活習慣や希望を取り入れ支援している。理髪後や利用者の状況に合わせて入浴したり、一人でも入浴できるよう見守りをしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの身体状況等をみながら、ゆっくりと休息が取れるよう考えている。生活にメリハリをつけるために歩行運動・散歩・ひなたぼっこ・体操等をその日の様子を見ながら勧めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬ファイル・配薬チェック表を使い、職員が把握できるようにしている。服薬時は職員2名で、薬袋の名前をフルネームで読み、返事をいただいたうえで顔を見て確認、手に渡して飲み込みの確認をする方もいる。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事全般で、お願いできそうな事を頼み、少しでも感謝の気持ちを伝えるようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 職員が出掛けるときに、一緒に出かけたり、市内を車で30分程度ドライブしたりして気分転換を図っている。 | 住み慣れた場所や自宅にドライブしたり、買い物の回数を増やし出かける機会が多くなるよう努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご自身が小額持っておられたり、必要時にはホームのお金を立て替えとして使っていたらいい。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 現在は特に取り組んでいないが、年末に向け、年賀状を書いていただくことを考えている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者が少しずつ作られた季節を感じさせる切り絵・貼り絵等の作品を飾ったり、畳みコーナーには座布団・毛布等を置いてゴロ寝ができるようにしている。 | 季節の花や利用者の作品、昔、有名だった俳優の絵等を飾っている。懐かしい曲を流したり、自由に過ごせる場所を作り、安心して過ごせるようにしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ウッドデッキには2・3人が座れる椅子を置き、ひなたぼっこしたり、畳みコーナーにはソファがあり、テレビを観たり懐かしい音楽を聴いたりされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時になるべく思い出の持ち物を持ってきていただくようお願いしている。ご主人の写真・家で使っていたポータブルトイレ・ぬいぐるみ等を置いて実用的にそして温かい雰囲気を作っている。 | 家族の写真や、ぬいぐるみ、タンス、椅子、座布団等、利用者に合わせた物を持ち込んでいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各個室にはわかりやすく表札を掲げ、トイレの表示は「便所」として、「ノックをしましょう」を付け加えたり、「お風呂場」などの張り紙をしている。 | | |